



書家 加藤裕さん作『久遠』

真宗高田派  
賢隆山久遠寺

〒460-0007

名古屋市中区新栄1-4-6

Tel & fax 052-241-5231

www.kuonji.net

kenryuzan-kuonji@nifty.com

久遠寺住職の

# いま不思議ないのちを生きている!



新年あけましておめでとうございませう。本年も宜しくお願い申し上げます。

新年を迎えるに当たり、昨年を振り返ってみますと平成二十六年度もいろいろな出来事が多々ありました。

思い起こせば、広島県の土砂災害、御嶽山の突如の噴火など自然界の異常気象は、地球の温暖化、人間の世界においても現実逃避から起こる薬の使用、児童虐待、テロ出血熱、鳥インフルエンザ、中東における学校児童の虐殺、など悲しい事件に心を痛めさせられました。

ノーベル平和賞のマラ・ユスフザイさんの演説の中に、強いと言われる国々は戦争を起こす上では逞しいのに平和をもたらしことに弱腰なのではないか、戦車は簡単に造るのに学校を創るのはなぜこれほど難しいのかと。

また人権活動家のカイラシユ・サトカルテイさんは個人のおもいやりを地球規模の思いやりに替えようと、

過激主義より寛容さを、恐怖より平和とは』を一人一人に問いかけておられます。

人間がもつ強い意志と自然の中でしか生きられない大きな恵みによって生きていることを認めなければいけないと痛感しております。このような事件がきっかけとなり、人間の在り方を問い、それが縁となつて、善き先輩方の教えが生きる方向を示して下さっていると思えます。

そこで、今共に生きていることを確認する為に衆徒・信雄がいろいろなイベントを企画し、人間同士のつながりを持つて、互いに語り合う場を設

けております。

ほとけさまは皆平等に助かってくれよと願っております。その喚び声が少しでも同行各位に伝わる事を願っております。

先日の法話会においても聞かせていただいたお言葉をお伝えいたします。そのお言葉とは、

「いつでもできるは、いつまでもしない」ということ。上所重助さんのそのうち」という詩の一節であります。

そのうちお金がたまったら

そのうち家でも建てたら

そのうち子供から手が放れたら

そのうち時間のゆとりができたら

そのうち……

そのうち……

そのうち……

そのうち……

出来ない理由を

くりかえしているうちに

結局は何もやらなかつた

空しい人生の幕がおりて

頭の上に淋しい墓標が立つ

そのうちそのうち

日が暮れる

いまきたこの道かえれない

今、自分の居り場所を今聞かねばならないと、手遅れにならぬように、今こうして生きていることの不思議さを何回も何回も聞く場を持ちましょう。

久遠寺住職 高山元智 合掌

# おあじわい

～ほうごカレンダーからいただく～

表紙

智慧・慈悲のはたらき

そのものが

仏しなのです

仏の心として、慈悲は業を与え、悲は苦を抜く。抜苦与樂と言われています。

私たちは「慈悲」というと、上から目線であつたり、善いことをしたという心から離れません。

「慈悲」と「智慧」のおこころは道理をわきまを行動する心であり、ます。けれども人間は法に背き、自分の思いで生きております。

そこで、自分の迷いが翻されるのが、人間の都合で考える「慈悲」ではなく、救わんとするが如くの仏の心であります。

また人間の疑いを除き、本当のことがわからない人間自身を自覚めさせるのが、仏のはたらきであります。



一月

称えるままが

つねに御本願の

みこころを

聞くことになる

香樹院徳龍師の語録から。

念仏申すということは聖人は念仏申して何かになるとか徳を得ようとかではなく、佛の名告りによつて今までの自分の思いの心が破られ、そこに新しい自分が発見されることでもあります。

称ははかりというこころなり。はかりというはものほどをさだむることなり「聖典」

二つのものが一つになる時である仏を念ずる時、実は仏から願われていたんだ、とその一つになった時を仰つています。

真宗に於いては本願をききて疑う心なきを聞くというなり「一念多念文意」

また如来の誓いの言葉を聞くことであると云われているのです。

二月

拝むとは

拝まゝ居た事に

気付き醒めること

現代は一人一人が他のことに無関心で自分のことばかりを考えているように感じます。

けれども、人間は網目のごとく、つながりて生きていますのであり、親子・社会の中で関係し、すべてがこうあつてほしいと願いをかけられている存在であります。

互いに願いをかけていることに気付かずにはいますが、親は子に、子は親に、仏は衆生に、衆生は仏に願いをかけているのです。だからそのことに自覚めた人、成つた人の証を知らねばならないのです。

拝まない者も拝まれている。拝まない時も拝まれている

東井義雄

成つた人の言葉、お味わい致しませう。

三月

死んで往ける道は

そのまま

生きてゆく道は

東昇氏は、ウィルス研究の第一人者であり、日本初の電子顕微鏡第一号を完成されたお一人です。母親の影響で、親鸞聖人の教えが科学者としての道に大きな教えとなられたそうです。

現代は人間の作り第二の自然の中に生活している。その自然との共用畏敬の念と感謝する「ことを強く叫ばれた方でした。

よく考えてみると生きていくことが不思議であり、偶然ではないのが、死は誰にでも必然としてやってくる。いのちそのものは自分の所有物ではなく、与えられたものであり、自分の意思ではどうすることもできないことを知ります。

お迎えは必ず来るのであり、動植物はその事実を黙って受け入れています。しかし、人間は自分の勝手な思いで自分の「生」を解釈しています。

けれども、その「生」は私の思いを超えている「生」であり、父も母も多くの先に往かれた人々が帰られた所だからこそ安心して往けるのであります。

人間の力で得たものは、みな消えていく。何一つ方にはなりません。力となるものは絶対他力、与えられた「ただ念仏」だけです。

第4弾  
歳末たすけあい古本勸進

買取価格 20% UP  
ハガキも 50円 で買取

# 古本勸進 ハガキ

平成26年12月～1月31日

年末の大掃除の結果、沢山の古本が家の片隅に積まれていますか？  
また年賀状を沢山投函された内、書き損じハガキが何枚か御座いませんか？  
なぜお聞きするのか。それは、古本や書き損じハガキで、東北の子どもたちの学資支援ができる

からです。是非ご協力いただき、古本や書き損じハガキを久遠寺にお譲り頂けないでしょうか？  
回収方法については、可能な限りいただきに伺う予定です。興味がある、処分したいと思われるし、たら、まずはご連絡ください。心よりお待ちしております。

【回収に関する条件】  
※古本は、雑誌辞典は回収不可。  
※書き損じハガキや不要になった喪中ハガキを対象です。  
以上、皆様のご協力で東北の子供達を支援致しますよう。



◀横浜なごみ庵浦上哲也御住職と演者の保谷果菜子さん。ちなみにご夫婦です。住職と並んでニコリ(笑)写真撮影▶

## 平成二十六年度当山報恩講イベントに 金子みずゞ一人舞台』をお招きしました。

平成二十五年度は、坊さんバンド『G・ぶんだりーか』さんをお招きしました。仏様の教え、いのちの尊さを歌に乗せて伝えてもらいました。その感動は今も心に残っております。

そして、平成二十六年度は横浜からお招きした「金子みずゞ一人舞台」。

お招きしたのは、真宗高田派の御寺院「なごみ庵」の御住職夫婦であります。坊守様は演劇出身。その才能を遺憾なく発揮され、仏様の教えを演劇を通して伝えてくださっています。

今回久遠寺としてお願いした金子みずゞさんは、波瀾万丈な短い人生を過ごされた方です。

そのみずゞさんの人生を通し、詩を織り交ぜながら、大切なものを伝えて下さるとも心に響く舞台を演じて下さいました。中には目に涙を浮かべる人も。それくらい感動する、共感できる温かい舞台でした。

みずゞさんは何を伝えたかったのか。私たちはそのお気持ちはどう受け止めるのか。いのちの不思議、尊さ、さらには仏様の慈しみが知らされるご縁を頂戴することができました。

衆徒 信雄

## フチ参籠へ 京都六角堂へ比叡山まで

浄土真宗開祖である親鸞聖人は、建仁元年（一一〇一年）二十九歳の時、毎夜比叡山を下り、六角堂に百日もの間、参籠されました。その95日目の暁の夢で、如意輪観音より「法然の許へ行け」との示現を得られたそうです。当時、法然上人は吉水で新しい専修念仏の教えを説いていた頃。親鸞聖人はこの夢告によって法然の許へ行き通った、と伝えられているのです。

そこで親鸞聖人が行き通われた道を、ほんの僅かでも経験しようと、高田派若手僧侶二六名で約五時間かけて京都市内を歩き、比叡山を登って参りました。「この道程を100往復と、心身ともに疲れ切る中、「真実が知りたい」との御聖人様の強き求道のお心を垣間見ることができた気がしました。求道の心、我が身に問われているようでした。

衆徒 信雄



◀始めの15分が一番キツかったです(-\_-)▶

